

埼玉育ちのグローバル人

世界は面白い！地球を歩こう！！



第3回「ラテン文化は面白い！ ～中南米旅を経験して～」

矢田部 建佑さん



iHola!

最終章は、JICA 海外協力隊を終えた後のお話。久しぶりにカンボジアへ里帰りしたいのとラテン文化にもっと触れたく、カンボジア→ニカラグア→アルゼンチン→ボリビア→ペルー→コロンビア→コスタリカ→ニカラグア→ホンジュラス→グアテマラ→キューバ→メキシコと、各国で学校やホテルなどでボランティアをしながら旅をしました。現地の人達と触れ合い、ローカルに触れるのがとても大好きで、そんなことを意識しながらラテン文化に触れてきました。

どの国も印象的で何の話をしてしようか迷いますね...

アルゼンチンでは、サン・アントニオ・デ・アレコという、地方の街からさらに外れた、ネットも入らないような場所で、エコを意識した“ラウチョ”という名前のホテルで3ヶ月ほどボランティアさせていただきました。廃墟をリノベーションしたホテルで、風車で井戸水をくみ上げ、雨水を貯め畑の野菜を育て料理、残飯はすべてコンポスト、太陽パネルで電気を賄う、といった地球に優しいホテル。のんびりしに来るカップルや家族連れで賑わい、乗馬サービスもあります。夜空を見上げれば天の川が観え、地面にはホテルが光りだします。庭の掃除をしているとホテルで飼っている犬の“シンバ”と猫の“プンバ”と“ティモン”がドラクエ如く私の後ろをひたすら付いてきます。とても可愛い“友だち”です。



クリスマスの夜に職場仲間や友だちと（アルゼンチン）

ボリビアやペルーでは、登山にて5,600mのコンドリリ山登頂、世界一標高の高いワスカラン国立公園(プロフィール写真は公園内にある標高4,600mの69湖)など大自然に触れ、ペルーのアマゾンでは森に住むクカマ族と触れたり、アマゾン川でバタフライしたり兎に角南米はスケールが大きすぎて、自分が小人になったような気分でした。



コンドリリ山 4,200mに住む姉弟。(ボリビア)

コスタリカでは、夕飯を食べに首都のサン・ホセの道を歩いていたら『ケン先生！！』と声をかけられ振り向くとそこにはニカラグアで教えていた子たちの仲の良いお父さんがいました。

柔道が好きで、子ども達の柔道を習っているのがとても印象的だったので私もすぐに誰か分かりま

した。第2回で述べたニカラグアの弾圧の件でコスタリカに家族総出で逃げてきたそうです。道端で絵を売って家族を養っているとのことでした。いつ難民になるか分からない現状を目の当たりにした出来事でした。



難民として逃げてきたレオン

*教え子のお父さんと（コスタリカ）

旅の最後メキシコでは、プエルト・バジャルタにあるホテルやメキシコシティにある脳性麻痺所持者支援協会(APAC)でボランティアをさせていただきました。APACでは、特別支援学校の先生と作業療法士とが協力し合い、障害を持つ我が子に対して親の不安や、子どものニーズを考えその子にあった指導、将来は働けるよう職業訓練をするなど、私にとっても多くのことを経験・勉強させていただきました。また、仕事終わりは休みの日は現地ですでた友だちとパルクールをして過ごしました。



APACの教え子たちと(メキシコ)



パルクール仲間と（メキシコ）

たくさんの経験をさせてもらったローカル旅の経験は僕にとって一生の宝物です。南米では多くの日系人たちとも係り、現在沖縄でも多くの日系人の友だちができ、時にはスペイン語の通訳などをさせてもらっています。

人生視野が広がれば広がるほど楽しいです。

『やって後悔したことは必ず次に生きる、やらなかった後悔はずっと引きずる』をモットーにこれからもたくさんのチャレンジをしていきたいと思っています。



クカマ族たちと（ペルー）